

【山崎主宰の俳句】

ゆらゆらどん

山崎 聰

華やいであと散り散りに紅葉狩
木枯し一号ゆらゆらどんと坐りいて
極月のまっただなかの玉子焼
十二月八日深入りすれば風哭いて
何の咎月山ははや雪を被て
数え日の風のなかなる一老人
あとしばらくは生者の側に年暮るる
十二月まっ逆さまに堕ちてゆく
山に棲み海を待みて玉子酒
山すでに深き眠りに冬至粥